

茅ヶ崎海岸の愛嬌もの「砂ガニ」の正体さがし

野口幹夫

毎朝ラジオ体操の会場に行くために
海岸を歩く。そこで出会う愛嬌ものは
「砂ガニ」だ。

写真のような本物と出会うことはな
かなかないが、彼らの住処である砂孔
は孔と掘り出した砂が積んであるの
で一目でわかる。夏ごろは無数にあ

る。蟹が外にいる時も見つかりと素早く穴に隠れる。

毎年今月11月に入るとその数は激減する。そしてやがてなくなってしまう。

数年前タウンニュースに砂蟹に関する市の文化資料館の解説が出ていた。



茅ヶ崎の身近な自然

スナガニの仲間

写真・文／文化資料館

海岸の砂浜を歩くと、砂浜の波打ち際付近の地面に10〜20センチ程度の穴が開いていることがあります。これは、砂浜に生息する「スナガニ」の仲間が掘った巣穴です。

夜に活動するゴーストクラブ
茅ヶ崎で近年よく確認されているスナガニの仲間は、熱帯・亜熱帯性のツノメガニやナンヨウスナガニの幼体です。成体が見られないことから、南方からの海流に乗り、幼生と言われる力二の形になる前の形態で流される。

スナガニ類の巣穴を調べる方法に、巣穴に石こうや樹脂を流し込んで型取りを行う方法があります。

茅ヶ崎の海岸で巣穴に石こうを流し込み、固まった後に掘り出した結果、一番深いもので43センチのものがありました。

【文化資料館 2】(85-1733)

てきたものが海岸に定着し、水温が温かい時期に生育した後、冬季に死滅すると考えられます。日中は周囲を警戒して巣穴にいたことが多く、地上に出て、すぐに巣穴に戻ります。夜間になると巣穴を出て、活発に活動

スナガニの仲間には、熱帯・亜熱帯性のツノメガニやナンヨウスナガニの幼体です。成体が見られないことから、南方からの海流に乗り、幼生と言われる力二の形になる前の形態で流される。

スナガニ類の巣穴を調べる方法に、巣穴に石こうや樹脂を流し込んで型取りを行う方法があります。

茅ヶ崎の海岸で巣穴に石こうを流し込み、固まった後に掘り出した結果、一番深いもので43センチのものがありました。

【文化資料館 2】(85-1733)

海岸の砂浜を歩くと、砂浜の波打ち際付近の地面に10〜20センチ程度の穴が開いていることがあります。これは、砂浜に生息する「スナガニ」の仲間が掘った巣穴です。

夜に活動するゴーストクラブ
茅ヶ崎で近年よく確認されているスナガニの仲間は、熱帯・亜熱帯性のツノメガニやナンヨウスナガニの幼体です。成体が見られないことから、南方からの海流に乗り、幼生と言われる力二の形になる前の形態で流される。

スナガニ類の巣穴を調べる方法に、巣穴に石こうや樹脂を流し込んで型取りを行う方法があります。

茅ヶ崎の海岸で巣穴に石こうを流し込み、固まった後に掘り出した結果、一番深いもので43センチのものがありました。

【文化資料館 2】(85-1733)

それによると「これは熱帯に住むナンヨウスナガニの幼体である。南洋からの海

流に乗り幼生のまま定着し、あたたかい間に生育した後 冬には死滅する」

とある。

長年なんとなく納得しにくいまま、その記事を信用してきた。例年は11月になると一斉になくなるのに、今朝も、孔は激減したもののいつまでも残っているの
で、一度AIで調べてみようと思い立ち、チャットGPTに「茅ヶ崎海岸にいる
砂ガニの習性について教えてください」と問いかけた。それに対する驚きの答え
が返ってきた。そのまま紹介する。

チャット GPT

いい質問です。

茅ヶ崎海岸（神奈川県相模湾沿い）にいる**砂ガニ（正式にはスナガニやコメツキガニ類など）**は、季節によってかなり行動が変わります。冬になるとどうなるかを詳しく説明しますね。

スナガニ（砂浜に穴を掘るカニ）の場合

- 茅ヶ崎海岸のような砂浜に多いのは「スナガニ」や「オカガニ」の仲間です。
- **冬の寒い時期（おおよそ11月～3月）**は、彼らは活動をほぼ停止します。
- 砂の中に深く潜って冬眠状態になります。
→ 深さは10～50cmほど、寒い年はさらに深く潜ることも。
- 地表付近では見られなくなるため、砂浜を歩いても姿はほとんど見えません。

コメツキガニ・チゴガニなど潮間帯のカニの場合

- これらは干潟や砂泥地に多い種ですが、湘南海岸周辺でも見かけることがあります。
- 冬になると活動が鈍くなり、巣穴に閉じこもります。
- 暖かい日が続くと一時的に出てくることもありますが、基本的には冬は地中生活です。

茅ヶ崎海岸の環境的ポイント

- 相模湾は比較的暖かい海ですが、海岸の砂の表面温度は冬にかなり下がるため、砂

ガニは生存のために地中へ潜ります。

- 春（3～4月）になると再び活動を始め、砂浜で姿を見せるようになります。

まとめ

季節 スナガニの状態

春～夏 活発に活動。砂浜に穴が多く見られる。

秋 活動が徐々に減る。

冬 砂の中に潜って冬眠状態。地表では見られない。

もし茅ヶ崎の海岸で冬に掘っても、表面近くではまず見つからないでしょう。

ただし、**潮間帯の深い砂の中には生きている個体が潜んでいる**可能性はあります。

ご希望があれば、「冬でも見られる湘南周辺の海岸生物（貝・ヤドカリ・ゴカイなど）」も紹介できますが、知りたいですか？

冬見えなくなるのでどこかえ移動するのかなと思っていました、冬眠とは知りませんでした。ありがとうございます。これでいいです

この回答に納得できた。この愛嬌もの砂ガニは、冬の茅ヶ崎海岸で死に絶えることなく、潜って冬眠し、また来春復活してくるというのだ。うれしいことだ。来年の春、また彼らと再会するとき、おめでとうと声をかけようと思う。それが楽しみにになった。

それとともに、今回のこの応答でも、いつもながら AI チャット GPT は、自分にとってオールマイティで一番頼りになる先生だと思った。

2025-11-13